

# Airbnb, l'envers du décor

Par Donald Hebert

Publié le 24-08-2013 à 09h22 Mis à jour le 15-08-2015 à 21h33

1. Le succès du site d'hébergement collaboratif inquiète les grandes villes : il réduit l'offre d'appartements à louer et menace le secteur hôtelier.
2. Un ours en peluche sur une étagère, des murs tapissés de dessins d'enfants, quelques ballons sur la moquette... Les vestiges d'un récent goûter d'anniversaire au cœur d'un chaleureux foyer ? Pas du tout. Nous sommes au bureau parisien d'Airbnb, le site de location entre particuliers.
3. Depuis sa création à San Francisco en 2008, la petite start-up de la Silicon Valley a bien grandi : elle propose 300.000 logements dans 34.000 villes de 192 pays. Après New York, c'est à Paris que l'on trouve le plus d'adeptes de l'hébergement collaboratif. Airbnb y a ouvert une antenne au début de 2012. "Hospitalité et confiance", précise Nicolas Ferrary, leur directeur. Cette recette fait très vite grandir la communauté. Au point de susciter de vives inquiétudes.
4. La démocratisation de la location touristique  
Quatre millions de voyageurs ont déjà testé le concept. Les annonces font rêver : les fondateurs ont eu l'idée d'envoyer dans chaque foyer un photographe dont les clichés donnent à n'importe quel studio une allure de loft new yorkais. Les prix aussi sont alléchants : 100 euros la nuit pour un duplex trois-pièces terrasse avec vue sur la tour Eiffel. Moins qu'une chambre dans le petit hôtel d'à côté.
5. Sélectionner, contacter, réserver : en trois clics, c'est plié. "Nous devons notre succès à notre modèle économique : l'annonce est gratuite, nous prélevons seulement une commission au moment de la transaction", explique Nicolas Ferrary. 3% payé par l'hôte, de 6 à 12% par le voyageur.
6. En pleine crise, Airbnb démocratise ainsi la location touristique. "Nous louons notre trois-pièces 750 euros la semaine, de quoi payer une partie de nos vacances", expliquent Isabelle et Quentin. Comme eux, 35.000 "hôtes" en France – dont 15 000 à Paris arrondissent leurs fins de mois en louant leur canapé, leur chambre d'ami, leur appartement ou leur maison. Cependant, le site représente parfois bien plus qu'un simple revenu d'appoint.

## 日本語訳

1. 大都市はエアビーアンドビーの成功を恐れている。というのもエアビーアンドビーはアパルトマンの申込数を減少させ、ホテル業界を脅かす存在になりつつあるからだ。
2. 棚の上にはぬいぐるみのクマ、壁は子供たちが描いた絵でおおわれ、カーペットの上にボールが転がっている。つい先日行われたであろう誕生日パーティーの残りが散らかっている暖かな家庭？ 現実とは全く異なっている。私たちは個人間で家を貸し借りするサイトであるエアビーアンドビーのパリ支社に来ている。
3. サンフランシスコにおける 2008 年の創設以来、シリコンバレーの小さなスタートアップ企業は順調に成長している。今では 192 か国 3 万 4 千都市で 30 万もの住居を提供しているのである。ニューヨークに次いでエアビーアンドビーの賛同者が最も多いのはパリである。2012 年の初めにパリでエアビーアンドビーは支社を設置した。「おもてなしと安心感」であると Nicolas ferrary 社長は述べる。この秘訣がこんなにも速いスピードでコミュニティーを広げたのだ。そしてその急激な躍進は一部の人に激しい不安を抱かせるものとなっている。
4. 旅行者への部屋レンタル大衆化  
400 万人もの旅行者がこのコンセプトをすでに試した。宣伝は夢をみさせるようである。創設者たちはすべての家庭にどんな部屋でもニューヨークのロフトのような雰囲気を与えるようなネガ写真を送ろうという考えを持っていたのだろう。価格も魅力的である。というのも 3 部屋付きの 2 階建て、さらにエッフェル塔を望むことができるテラスまで付いた物件が一晚 100 ユーロで借りられるのだ。これなら隣にあるホテルと比べて少しも劣っていない。
5. 選択して、連絡を取って、予約する。わずか 3 クリックで予約は完了である。「今の経済システムのおかげで我々は成功したといってもよいだろう。宣伝は無料で私たちはただ契約の際に数パーセントの手数料を受け取るだけだ。」と Nicolas Ferrary 氏は語る。貸主からは 3 パーセント、宿泊客からは 6~12 パーセントを受け取っている。
6. 経済危機のさなかでもエアビーアンドビーはこのようにして旅行者への部屋レンタルを大衆化させたのだ。「私たちは自分たちのバカンスのために 3 部屋を 1 週間 750 ユーロで貸している。」と Isabelle と Quentin は語る。彼らのようにフランス全土では 3 万 5 千、パリでは 1 万 5 千の貸主が自分たちのソファ、ゲストルーム、アパルトマンまたは家を貸し出すことで月の収入を増やしている。しかしながらエアビーアンドビーのサイトは単なる副収入以上のものを提供するのである。

## 単語・熟語/文法解説

名詞の後の(m.)は男性名詞、(f.)は女性名詞をそれぞれ意味する。

### 1. hébergement (m.) : 宿泊

collaboratif : 共同の

inquiéter : ~を心配させる

réduire : ~を減らす

menacer : ~を脅かす

secteur hôtelier (m.) : ホテル業界

- le site d'hébergement collaboratif は Airbnb の言い換えとして書かれている。
- les grandes villes はパリやニューヨーク、東京のような大都市を表す。

### 2. ours (m.) : クマ

peluche (f.) : ぬいぐるみ

étagère (f.) : 棚

tappissé de : ~で覆われた

ballon (m.) : ボール

moquette (f.) : カーペット

vestige (m.) : 残り・名残り

récent : 最近の

goûter (m.) : おやつ

chaleureux : 暖かい

foyer (m.) : 家庭

particulier (m.) : 個人

- ~en peluche で「~のぬいぐるみ」という意味になる。
- ballon はサッカーボールやバスケットボールのような比較的大きいサイズのボールを指す。野球やテニスのボールは balle という単語を用いて表すことができる。
- moquette は「床一面を覆うカーペット」であり、「床の一部を覆うカーペット」は tapis という。
- goûter は動詞で「~を味見する・~を味わう」という意味がある。
- particulier は形容詞で「個別の・独特な」という意味がある。

3. bien : 順調に

proposer : ~を提供する

adepte : 参加者

antenne (f.) : 支社

au début de : ~の初めに

hospitalité (f.) : おもてなし

confiance (f.) : 安心感・信頼

recette (f.) : 秘訣・コツ

au point de : ~するほどまで

susciter : ~を引き起こす

vif : 激しい

inquiétude (f.) : 不安

- petite start-up の間には entreprise 「企業」が隠れているものと考え。本来、外来語である英語由来の start-up という名詞は男性名詞であるはずだがこの文で la petite start-up と女性名詞のように扱われている理由は間に女性名詞である entreprise が隠れていて、la petite はこの隠れている entreprise に一致しているものと捉える。この場合 entreprise と start-up はどちらも名詞なので同格的に扱われている。
- bien は「とても」という意味もあるが、ここでは「順調に」が適訳。
- que l'on の l'には文法上の意味がない。この l'は音の都合上書かれているものであり、もしこの l'が消えると qu'on となり、quand の発音と同じになってしまう。このことを避けるために文法上では意味のない l'が間に挟まれる。
- y は à Paris を表す。
- recette は「秘訣・コツ」以外にも料理本などで「レシピ」という意味で頻繁に使われる。
- de vives inquiétudes の de は des が de に変化したものである。フランス語の文法規則として、名詞の前に置かれる形容詞が複数形のとときに不定冠詞の des が de に変化するルールがある。ここでは vives という形容詞が名詞の前に置かれる形容詞なのでこの規則が適用され、本来 des と書かれる不定冠詞が de と書かれている。

4. démocratisation (f.) : 大衆化

tester : ~を試す

concept (m.) : アイデア

annonce (f.) : 広告・宣伝

fondateur : 創業者

cliché (m.) : ネガ

allure (f.) : 様子・雰囲気

alléchant : 魅力的な

duplex (m.) : メゾネット型アパルトマン

moins que : 少しも~ではない

- un photographe dont les clichés の dont は「その~」という意味で英語の whose と同じ訳し方ができる。
- [n'importe quel(le)+名詞]は「どんな~も」という意味を表す。同じように n'importe qui は「誰でも」 n'importe où は「どこでも」を意味する。

5. sélectionner : ~を選択する

c'est plié : 話がついた

devoir A à B : BにAの借りがある

gratuit : 無料の

prélever : ~を取る

commission (f.) : 手数料

au moment de : ~の時に

transaction (f.) : 取引

hôte : ホスト

6. crise (f.) : 危機

ainsi : このように

louer : ~を貸す

de quoi+動詞 : ~するのに必要なもの

arrondir : ~を増やす

fin de mois (f.) : 月末

cependant : しかしながら

revenu d'appoint (m.) : 副収入

- en plein(e) +無冠詞名詞で「~のただなかで」という意味になる。
- ainsi は「このように」のほかにも「例えば」という意味がある。